

感染症との闘い

～神戸・ひょうごから、グローバル・ヘルス・ガバナンスを考える～

日時: 2016年2月24日(水) 午後6時～7時半
場所: 神戸国際会議場3F 国際会議室
 (神戸市中央区港島中町6-9-1)

G7神戸保健大臣会合が9月11日(日)・12日(月)に神戸市で開催され、保健分野における国際的な課題について、G7(日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ)の保健担当大臣が議論していきます。これらの課題の一つはグローバル・ヘルス・ガバナンス(世界的な健康危機管理)です。

これまで2年にわたり流行した西アフリカでのエボラ出血熱の感染は、世界中に大きな脅威と衝撃を与えましたが、WHOをはじめ国際社会の懸命な努力により、現在は終息方向に向かっていきます。

エボラ出血熱との闘いで我々が得た教訓は、グローバル・ヘルス・ガバナンスの強化なくして、保健サービスの向上はあり得ないというものでした。

このフォーラムは、世界的な感染症問題やエボラ出血熱から得た教訓などから、来場された皆さんとともに、グローバル・ヘルス・ガバナンスを考える機会となることを目的にしています。



ポートライナー市民広場駅徒歩2分

プログラム

(登壇順・敬称略)

1. 挨拶 18:00

兵庫県健康福祉部医監 山本 光昭
 WHO神戸センター所長 アレックス・ロス

2. 講演 18:15

第1部(日本語講演)

「グローバルヘルスガバナンス」
 ～全ての人が関わる国際保健～

WHO神戸センター

テクニカル・オフィサー(健康危機管理担当) 茅野龍馬

第2部(英語講演(日英同時通訳))

「シエラレオネにおけるエボラ出血熱との闘い
 -行政担当者」

シエラレオネ保健省保健システム政策・計画・情報部長
 サミュエル・カーボ

「シエラレオネにおけるエボラ出血熱との闘い
 -医療従事者」

WHOアフリカ地域患者安全専門家—ジョイス・ハイタワー—
 シエラレオネ・コノ地区医療管理者 ロナルド・カルシオン・マルシュ

「エボラ出血熱へのWHOの対応」

WHO本部保健サービス及び危機管理部
 次長 シャムズ・ババール・シェド

3. 質疑応答 19:15

(オープン・ディスカッション)

主催: WHO神戸センター(WKC)・G7神戸保健大臣会合推進協議会 後援: 厚生労働省

お問い合わせ: WHO神戸センター(WKC)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 I.H.D. センタービル 9階
 電話: (078)230-3100 ファクス: (078)230-3178 電子メール: wkc@who.int

演者紹介

挨拶

山本 光昭（兵庫県健康福祉部 医監）

昭和59年3月神戸大学医学部卒業後、厚生労働省に入省。茨城県保健福祉部長、厚生労働省東京検疫所長、内閣府参事官、厚生労働省近畿厚生局長を経て平成27年7月から現職。

アレックス・ロス（WHO神戸センター 所長）

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校で学んだ公衆衛生政策、殊に保健制度の専門家。これまで、WHOジュネーブ本部にてパートナーシップ部長、感染症担当事務局長補付部長、エイズ・結核・マラリア担当事務局長補首席補佐官などの管理職を歴任。この間WHOパートナー政策を構築し、国際保健の取り組み、国際機関、NGO、民間部門との関係をはぐくむ。2011年10月より現職。WHO神戸センターは高齢社会のニーズに着目しながら、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)、技術イノベーション、社会イノベーション&システム・イノベーション、健康危機管理などの分野の研究を展開していきます。

講演

「グローバルヘルスガバナンス～全ての人に関わる国際保健～」

茅野 龍馬（WHO神戸センター テクニカル・オフィサー 健康危機管理担当）

WHO神戸センターの専門官として健康危機管理に携わる。新型インフルエンザ、エボラ、MERS、ジカ熱など、新興感染症の流行に関する窓口として、兵庫県、神戸市をはじめとした地方自治体との情報共有、本部や地域事務局、厚生労働省との情報交換を行う。また、災害医療にも携わり、国内外の防災関連の事業に貢献、日本と世界をつなぐ様々なプロジェクトをサポートしている。医学的バックグラウンドは精神科医。東日本大震災の折は、医療支援チームとして現地に派遣された。神戸センターの精神科領域の研究にも携わる。

「シエラレオネにおけるエボラ出血熱との闘い-行政担当者」

サミュエル・カーボ（シエラレオネ保健省保健システム政策・計画・情報部長）

医師サミュエル・カーボ氏はシエラレオネ保健省の保健システム政策・計画・情報部長である。現在、エボラ出血熱後の国のレジリエントな保健システムを作るための戦略作りの責任者である。2008年に同省でリプロダクティブヘルス及び子供の健康に関する部局を創設し、以来、5歳以下の乳幼児及び妊産婦への無償の医療サービスの展開に尽力してきた。

「シエラレオネにおけるエボラ出血熱との闘い-医療従事者」

シエラレオネ・コノ地区医療管理者 ロナルド・カルシオン・マルシュ氏に変更

ジョイス・ハイタワー（WHOアフリカ地域患者安全専門家）

アフリカの医療に長年携わるアメリカ人内科医。2008年より患者安全のためのアフリカパートナーシップを通じて、22カ国以上のアフリカ諸国で患者安全確保の推進に従事し、患者安全政策推進ガイドの作成を指導。2015年には、ギニアのエボラ流行で感染予防、感染制御の指揮を務めた。現在はWHOを退職し、保健サービスと質に関するコンサルタントとして精力的に活躍する。

「エボラ出血熱へのWHOの対応」

シャムズ・ババール・シェド（WHO本部保健サービス及び危機管理部次長）

WHO本部、保健サービス及び健康危機管理部にて、2015年10月に新設された課、「ユニバーサルカバレッジおよびその質」のコーディネーターを務め、その統括と発展に努める。2014年の夏より、エボラ出血熱流行国における保健システム強靱化に対して中心的な役割を果たす。また、患者安全のためのアフリカパートナーシッププログラムを、2008年の発足より監督している。学問的な関心領域は、グローバル保健システムのイノベーションである。ロンドン大学セント・ジョージ校医学部を卒業し、英国で医師として研修。ケンブリッジ大学で博士号を取得の後、渡米してジョンズホプキンス大学にて予防医学の研修を受ける。米国公衆衛生、予防医学認定専門医。これまでに、保健システム研究に関する多国間協力や、汎米保健機構でのカリブ海7カ国保健システム強化事業(特にサーベイランス強化事業)、WHOトリニダード・トバゴでの家庭・地域保健アドバイザーなどを務める。

質疑応答(オープン・ディスカッション)

参加者からの質問や意見を募り、ディスカッションを行います。

* * * * *